

廣報

東京大学理学部



目次

表紙の説明…………… 1
 東京大学理学部は我が国と人類の柱に
 …飯田修一… 2
 飯田先生の御退官によせて…………… 上村 洸… 3
 東大理学部を離れるにあたっての御挨拶
 …藤井忠男… 4
 藤井忠男先生の転任にあたって…釜江常好… 5
 愚生の夢……………橋本英典… 6
 橋本先生を送るに当って……………神部 勉… 8
 論理の飛躍……………岡村孝郎… 8
 岡林さんのこと……………和田 靖… 9
 宇宙の易学39年……………海野和三郎… 10
 海野先生を送る……………尾崎洋二… 12
 去るにあたり……………不破敬一郎… 13

不破先生夏話一人魂の分光学……………原口紘丞… 14
 三崎からのねがい……………木下清一郎… 15
 木下清一郎先生……………重井陸夫… 16
 東大を去るにあたって……………桐村康子… 18
 桐村さんを送る……………藤田昌子… 19
 “弥生ヶ原にたゞずみて”……………友田幸子… 20
 友田技官を送る……………熊沢峰夫… 21
 仲野喜美子さんを送る……………佐藤良輔… 22
 今井 勲さん……………近藤 保… 23
 植物園の35年……………大塚靖夫… 24
 大塚靖夫(植物園)の退官によせて…甲斐正人… 24
 石渡丈夫さん……………橋本勝眞… 25
 <<学部消息>>…………… 26

表紙の説明

赤道上を動く大積雲団

惑星探査機ボイジャーから送られて来る映像は、遠く離れた惑星の知られなかった姿を映し出し、多くの謎を問いかけて来るが、よく知っているつもりで我が地球の大気にも、人工衛星から眺めて初めてわかった不思議な現象がある。

3枚の写真は、気象衛星「ひまわり」から見た雲の姿で、左から順に1985年4月16日、18日、20日のものである。図中央を東西によぎる赤道に沿って、対流性の積雲が多発しているが、よく見ると、東西に3,000 km程度のひろがりを持った積雲の塊がある(矢印)。一連の写真が示すように、この積雲集団は赤道沿いに西から東へ動いて行く。赤道近くでは、東風(西向き)の貿易風が吹いているから、積雲集団は風に流されているのではなく、それに逆らって動いている。赤道沿いに東向きに伝わる大規模な大気の波・赤道ケルビン波が関係しているらしい。積雲集団として活発なのはインド洋から西太平洋までだが、波動は地球を一周し、40~50日の周期を持つ。この“振動”は、夏季インドのモンスーンの降雨をはじめ、熱帯域全体の大気、さらに梅雨活動の変動とか寒気の吹き出しのような中・高緯度の気象の長期変動にも影響を与えるらしい。

地球物理学教室の気象研究室では、全域を海で覆われた「水惑星」の数値モデルを作ってシミュレーションを行い、世界の先頭に立って、この現象のメカニズムを明らかにしつつある。

地球物理学教室 松野太郎